

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500782		
法人名	社会福祉法人 寿泉会		
事業所名	八幡園グループホーム		
所在地	三重県津市津興2947		
自己評価作成日	平成21年8月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470500782&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 21 年 9 月 3 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)	食事が楽しく摂れるように力を入れている。
--------------------------------	----------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	鉄筋2階建て1階がデイサービス、2階がグループホームになっている。広い空間と自然光を充分に取り入れた明るい環境で、2階であるということを感じさせない開放感と地域の風景にフラットな接続を感じる。家庭的な環境・安心と尊厳のある生活・可能な限り自立した生活ができる支援を実践している。
---------------------------------	---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を基に、サービス提供を行っている。	理念をホールに掲示、職員名札の裏面に印刷、毎月開催される運営会議や実践の場で確認と共有がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、地域との付き合いを行っている。又、地域の行事への参加を恒例行事としている。近所の方のボランティア協力も受け入れている。	事業所は地域自治会に加入し、自治会の行事に積極的に参加すると共に、地蔵堂のお守と空き地の管理を任されるなど、地域とつきあいながら事業が運営されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の立地と建物の広さを有効利用して頂けるように常に利用の促しへの声掛けを行っている。自治会への講師派遣等も行い貢献を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場で出席者からの意見や提案等を受け、サービスへ活かすようにしている。又、相談の場としてアドバイス等も行えるようにしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議が行政担当者をはじめ地域包括センター・民生委員・家族代表等多くの出席を得て開催されている。試食会なども取り入れて、事業の運営に対する忌憚のない意見が出せる配慮がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場はもとより、市役所へ出かけた際は職員と情報交換出来る関係を築けるよう常に試みている。	運営推進会議・地域の高齢者の状況・地域の福祉事業の在り方などで情報・意見交換がなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に身体拘束をしないケアについて掲示物を目の付く所に掲示し、職員の意識を促すようにしている。	事業所管理者・職員共々、身体拘束の弊害をよく認識し、身体拘束をしない支援の姿勢と実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間同士でお互いに見過ごす事がないように常に注意を払っている。専門誌等で個々が学習出来るように図っている。会議の場で意見交換を行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の利用者がいるため理解と学ぶ機会が身近にあるため活用されている。専門誌等での学習の機会が得られるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得されるまで書面や口頭で十分な説明を行っている。疑問点等には納得されるまで対応するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族に対して常に意見を言いやすい雰囲気作りを心掛け、意見を伺える機会には積極的に働きかけ、それらをもとに反映出来るようにしている。	利用者や家族などの意見・要望が表出され易いように、苦情箱の設置、第三者機関の電話等玄関に掲載するとともに、利用者や家族との人間関係に配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や申し送り会で意見や提案を出す機会を設けるようにしている。更にコミュニケーションを常に図り、意見を反映できるようにしている。	毎月1回運営会議を開催し、支援の実践・事業所の運営などについて検討・話し合いをしている。管理者は職員が意見や話合いの出来やすい雰囲気づくりを積極的につくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適材適所を心掛け、職員の得意分野で力を発揮出来るように全体像の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会に多くの職員が参加してスキルアップできるような環境を作っている。資格試験には受験料の援助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等のグループホーム同士の付き合いの場に参加している。その場の研修でサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への聞き取りはもとより、家族や担当ケアマネ・ケースワーカー・主治医等からの聞き取りを行って理解を深めることで早く関係が作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	時間をかけて対話を行うことで、要望等が言いやすい雰囲気作りを行っている。更に信頼と安心がえられるように相談に充分応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員間で実際の状態を率直に見て、早急に必要なサービスとそうでないものとを判別し流動的なとらえ方で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯・食事作り・買い物・草むしり・掃除・ペットの世話等出来ることをすることで張りあいや楽しみを感じながら生活することで支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向が理解出来、共にこちらの意向も伝えられるような関係づくりを行っている。実際に行事への参加や受診の手伝い等もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々の訪問が頻繁に有り、馴染みの場所への訪問が出来るよう家族の協力も仰ぎながら支援を行っている。	日頃の散歩、地域からの訪問、ボランティアの受け入れなど積極的に進め、家族共々馴染みの関係継続に配慮した支援を実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いが馴染みの関係・仲間として生活出来るように関わりの機会や支え合いの機会をつくるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に対しても要望に応じて関わりを持ち復帰に向け、協力体制を取って対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思い、生活歴や特性の把握に努め、それらに応じて、満足出来るような対応を心掛けている。	利用者個々の状況や意向を把握できるように、日頃から話かけることで話し易い関係作りに配慮した支援を実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りを充分行い、家族や担当ケアマネ・ケースワーカー・主治医等からの情報を集め、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランにもとづき、日課をもとに柔軟に生活できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全ての職員と家族とが関係して介護計画を作成し、本人と家族の同意のもとに実施出来るように努めている。	計画作成・見直し共に、全職員で検討し、介護計画が作成されている。見直しについては、日頃の状況を各種シートや介護記録からモニターされた状況を基に検討している。	介護計画の見直しを3ヶ月に1回行い、目標・目的・家族の意向を踏まえて、適切な支援計画になるように配慮されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケースファイルに詳細を毎日記載して、職員が実践出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて、併設の施設の行事への参加や買い物・外出等も自由に出来るよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や老人会の行事への参加に、希望に応じて参加する機会を設け、関わりが持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の病歴・受診歴から希望のかかりつけ医師へ受診が出来るよう支援している。	協力医・かかりつけ医への受診を家族と連絡し、ともに支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理はもとより迅速に適切に異常の際に医療が受けられるように連携が取れており、支援が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係医療機関との情報収集に努め、職員が情報の共有が出来るように関係作りを行うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いの場を持ち、意向をくんでの介護が行えるよう対応している。	過去に2例の看取りを経験している。医療や家族・利用者の意向を含め状況を共有し、重度化や終末期の支援を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修での訓練や事故報告書からの実際の例からの学びをもとに実践力がつくようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域での協力体制も整いつつある。	年2回の火災避難訓練を実施している。今年度は地域と一緒に避難訓練を実施すべく計画中である。	地域の自主防災会と共に、避難訓練の実施と夜間勤務体制想定訓練の実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務の中で意識的に声掛けを行ったり、テーマについての検討を行うようにしている。	言葉掛けや支援の実践も含め、個人の人格や自尊心・プライバシーの侵害にならないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に職員は意識して利用者の意志決定の機会には決定が図れるように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別プランをもとに個々のペースに基づき無理なく支援出来るように留意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	頭髪については定期的に美容師に来てもらっており、衣服・化粧品等も個人の好みに合わせて買い物へ付きそうなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りでは毎回好みを聞いてメニューに活かしたり、利用者による準備や片付けなど無理の無い程度に参加・協力をして食事に対しての楽しみを得られるようにしている。	利用者・職員ともに、準備から食事摂取・後片付けなど利用者の能力に応じて参加し、会話も含めて食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の際の各利用者の摂取量に注意すると共に、特に必要に応じて詳細なチェックをして把握に努めている。又、水分摂取に関しても常に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯洗浄剤の使用を行って口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子からや時間で声掛けや誘導などを行い、気持ち良く排泄が出来るように支援している。	各個室にトイレ・洗面所が設置されていて、個別な排泄支援が受けられるようになっている。支援の実践場所では、羞恥心や自尊心が侵害されないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の促しと共に、食事や運動など予防のために食物繊維の多い食材を摂ったり、お腹のマッサージの励行などに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に5回入浴日を設けて機会を多くする事でより入浴しやすい状況を作ると共に、タイミングの良い声掛けで気分良く入浴出来るようにしている。	週5日の午後2時から5時までの間に入浴を楽しむことができる。順番など決めず、利用者それぞれ誘い合ったり、誘導を受けたりの支援を実践している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気楽にごろ寝の出来る和室や数多くあるソファでゆったり安息出来るように環境をととのえている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ、誤薬等のないように常に意識して支援できるようにしている。状態の変化に対応して服薬出来るように看護との連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や嗜好に合わせて編み物や花作りなどをして頂いたり、コーヒー好きの方には食後に欠かさず提供したりしている。食事運びや新聞受けなどの役割をお願いしてやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物をはじめ外食や喫茶店などに出かけたり、家族の協力で外出の機会が持てるように支援している。	散歩・日用品買い物など兼ねて、個別な外出支援を実践している。季節の花見や観光地への外出も計画し実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理ができる方にはサイフを個人で持って買い物に行つて必要な物を購入出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望で携帯電話を使用したりと必要に応じて連絡が取れるようになっている。年賀状や暑中見舞い等は欠かさず、本人から送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、季節感を常に感じられるように季節の草花を飾り、行事の写真や作品を掲示している。照明も落ち着いた照度にしており、居心地が良くなるように温度管理も行っている。	高い天井からの自然光があり、ゆったりとした共用空間で、過剰な装飾がなく窓が大きく、近隣の風景があたかも1階に見えるように見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいくつも置いて1人でも複数でもくつろげるようにしてある。又、ごろ寝も出来るように畳の空間として和室も設けてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物の使用の規制は無く、活かせるものは自由に活かせるようにしている。	居室はそれぞれ利用者の飾り付けで設営されて、トイレ・洗面所があり、プライバシー的にも好ましい空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に目印を付けたり、手すりにテープを貼って見やすくし、居室までの歩行の助けにしている。必要に応じて張り紙等をして安心して過ごせるようにしている。		